



～富岡中学校図書館だより～



3学期が始まりました。今年の目標は、立てましたか？3学期は短くあっという間に過ぎてしまいます。進学、進級に向け有意義な学校生活を送りましょう。



～図書館からのお知らせ～

★冬休み前に借いた本は16日
までに返却してください。

～今年は午年～

馬に関する本
だよ～！

小寒 一月六日から二十日ごろ。朝、ふとんから出るのがつらくなる季節ですね。小寒は「寒の入り」と呼ばれています。これからいよいよ寒さが厳しくなって冬本番をむかえるのです。

「絵本」よみ二十四節氣と七十二候」より

小寒の氷大寒に解く（ことわざ）
暦の上では、小寒から大寒に向けて寒さが増すはずなのに暖冬なので、大寒のほうが小寒より暖かくなることがある。物事が必ず順に従って進むわけではないということのたとえ。

ロスト・イン・ザ・ターフ

馳星周 913ハ

競馬は、ロマンだ！競馬を愛してやまない著者が贈る夢の物語。亡き兄が遺した競馬バーを営む倉本葵。ある日、大井競馬場に出走する芦毛の9歳の牝馬・ウララペツを見かけるなり目ぼれする。ウララペツは名馬として名高いメジロマックイーン最後の産駒だった。だがほどなく、戦績の振るわないウララペツは引退することに。このままでは、ウララペツは食肉にされる。葵は、ウララペツを買い取って馬主となり、種牝馬にしようと思案するが、次から次へ難題が・・・。

風の向こうへ抜けろ 古内一絵/著 913フ

芦原瑞穂（18歳）は地方競馬界にデビューした女性騎手。配属先は、「藻屑の漂流先」と揶揄される寂れた弱小厩舎。調教師、厩務員たちは皆それぞれが心に傷を抱え、人生をあきらめたポンコツ集団だった。当初は廃業寸前だった厩舎も、瑞穂の真摯な努力と純粋な心、情熱から徐々に皆の心は一つとなり、ついには大きな夢、中央競馬の桜花賞を目指すまでになるが、行く手には様々な試練が。温かな絆でつながった彼らの運命は・・・。競馬に興味がない人も競馬好きも大満足のさわやかな感動を呼ぶ人間ドラマの大傑作です。

会社がわかる仕事わかる 馬のトレーナーという仕事 世界最強の競走馬を育てる！！

厩舎スタッフは、調教師が馬主から預かった馬を日々世話しながら早く走るための調教を行っています。美浦トレセン、栗東トレセンの両方を合わせて、約200の厩舎があり、約4000頭の競走馬と約2600人の厩舎スタッフが所属しています。そこで働く人たちは、どんな世話をしてどう調教しているのでしょうか？

学習図書委員大賞・投票結果！！

多くのみなさんが投票してくれました。ありがとうございました。



- 1 位 『変な家 2 11 の間取り図』 雨穴/著 飛鳥新社
- 2 位 『ストロベリームーン』 芥川なお/著 すばる舎
- 3 位 『私はチクワに殺されます』 五条紀夫/著 双葉文庫
- 4 位 『クスノキの女神』 東野圭吾/著 実業之日本社

* 投票数の多かった上位 4 冊を購入しました。借りたい本がある人はお早めに図書室に来てください。

『今月のおすすめ本』



ぼくたちは ChatGPT をどう使うか

西岡孝誠/著 007

ビジネスでは広く使われている ChatGPT。ところが、学校の授業では活用が進んでいません。

ChatGPT は非常に便利なものであり、使いこなせばどんどん学力を伸ばしていける。その反面使い方によっては自分の頭を悪くしてしまうかも。「考える力」と「自分で学ぶコツ」がわかります。

黄色い家

川上未映子/著 913カ

人はなぜ、金に狂い罪を犯すのか。

2020 年春、惣菜店に勤める花は、ニュース記事に黄美子の名前を見つける。60 歳になった彼女は、若い女性の監禁、傷害の罪に問われていた。長らく忘却していた 20 年前の記憶。黄美子と少女 2 人と疑似家族のように暮らした日々。まっとうに稼ぐすべを持たない花たちは、必死に働くがその金は無情にも奪われ、よりリスクな「シノギ」に手を出すことになる。歪んだ共同生活は、ある女性の死をきっかけに瓦解へ向かい・・・。

* 本の内容紹介は各出版社商品紹介などから抜粋

やなやつ改造計画

吉野万理子/著 913 ㊦

世のため、人のため、だけど一番は自分のため？！ 中学 3 年生の気まま男子、京座木光也は生徒会長に立候補することを決意。選挙を勝ち抜くために、リーダーになるための研究をはじめますが・・・。

恋に友情、SNS の炎上 etc. 思いもかけない大波小波がつぎつぎと押し寄せます。

自分を変えたい！ 変わりたい！ と思っている子にエールを送る青春ストーリー。

クマはなぜ人里に出てきたのか

永幡嘉之/著 489

大量出没と人身事故の増加でマスコミを騒がせるツキノワグマ。背景では何が起きているのか？ 著者が大切にしているのは「自分の眼で見て考えること」。山に棲む山岳から里山まで丹念に調べ歩き、クマと人間との関係を読み解いていく。

「怖い」だけでは終わらせず、クマという生き物を知る面白さを考える一冊。